

国内流行株とは異なるクラスターに属する 牛ウイルス性下痢ウイルスの検出事例

清水誠也^{1)†}田中知未¹⁾新田 愛¹⁾木村美貴¹⁾落井真史¹⁾安藤清彦²⁾

1) 福井県家畜保健衛生所 (〒 918-8226 福井市大畠町 69-10-1)

2) (国研)農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門
(〒 305-0856 つくば市観音台 3-1-5)

(2025年4月11日受付・2025年7月8日受理・2025年10月24日公開)

本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/10/78_e143/_article/-char/ja

要 約

福井県の1酪農場で牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV) 感染による集団下痢が発生し、子牛1頭が持続感染 (PI) 牛として摘発された。PI牛を産出した母牛の移動歴を調査した結果、妊娠100日前後に県内公共牧場で飼養されており、そこでBVDVに感染したと推察された。疫学調査の結果、BVDVの公共牧場への侵入経路の特定には至らなかった。牛ウイルス性下痢発症牛及びPI牛から検出されたウイルスの5'非翻訳領域及びE2領域について遺伝子解析した結果、BVDV2aに近縁で、塩基配列は100%一致した。E2領域の分子系統樹解析の結果、本症例の原因ウイルスはアメリカの分離株に近縁で、既報の国内分離株とは異なるクラスターを形成した。これまでこのクラスターに分類される国内株の報告事例はなく、本症例は当該クラスターに分類されるBVDVによる初の症例報告である。

——キーワード：牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV), E2 遺伝子, 分子系統樹解析.

-----日獣会誌 78, e143～e148 (2025)